

カマキリ（アユカケ） *Rheopresbe kazika* (Jordan et Starks)

【選定理由】

海と川を行き来する降河回遊魚である本種は、県下全域で減少している。特に横断構造物（落差工、堰堤等）の影響により、仮に魚道が付いていても遡上が困難であり、個体数が著しく減少していると推定される。

【形態】

体長 20cm。灰褐色で黒い帯が 4 本、背鰭の後方と尾鰭近くにある。鰓蓋の上方に 4 本の棘があり、アユなどの魚を引っかけて捕らえるという伝説がアユカケの名の由来である。

【分布の概要】

【県内の分布】

矢作川、豊川、庄内川を含む県内の主要な水系。

【国内の分布】

秋田県・茨城県以南の本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

親魚は秋に川を降り、河口域や沿岸域で産卵する。ふ化した稚魚は海で成長し、春に河川を遡上する。稚魚は水生昆虫を主体に食べるが、成長すると魚食性が強まる。夜行性で、昼間は礫の間隙などに潜み、夜になると浅い瀬や淵に出てくる。

【現在の生息状況／減少の要因】

本種は河川の遡上能力が低いことから、落差工（堰）や階段式魚道の落差が非常に小さくてもこれを越えて上流に行くことが困難である。

【保全上の留意点】

県内の河川には、多数の横断構造物（落差工）が設置されており、生息域が縮小しているものと推定される。魚道の設置等の早急な整備が望まれる。

【特記事項】

分子系統解析により、従来の *Cottus* カジカ属は多系統群となり、本種はヤマノカミ *Trachidermis fasciatus* の姉妹群と推定され、*Rheopresbe* Jordan et Starks, 1904 へと帰属が変更された (Goto et al. 2019)。なお、本種は、福井県、熊本県では天然記念物に指定されている。

【引用文献】

Goto, A., R. Yokoyama, I. Kinoshita, and H. Sakai, 2019. Japanese catadromous fourspine sculpin, *Rheopresbe kazika* (Jordan & Starks) (Pisces: Cottidae), transferred from the genus *Cottus*. Environmental Biology of Fishes <https://doi.org/10.1007/s10641-019-00921-3>

【関連文献】

後藤 晃, 1989. アユカケ. 川那部浩哉・水野信彦 (編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚, pp.655-657. 山と溪谷社, 東京.  
高木基裕・谷口順彦, 1992. 高知県におけるカマキリ, *Cottus kazika* の分布. 水産増殖, 40(3): 329-333.

(谷口義則)